



幸運の町 大迫町、1979年 大島洋

写真展

福島県立博物館 平成26年度 春の企画展

東北 — 風土・人・くらし

2014年4月19日(土) - 5月18日(日)

日本人写真家たちが見た東北

島山直哉	津田直	仙台コレクション	田附勝	林明輝	大島洋	内藤正敏	芳賀日出男	小島一郎	千葉禎介
------	-----	----------	-----	-----	-----	------	-------	------	------

休館日 = 4/21(月)、4/28(月)、5/7(水)、5/12(月)

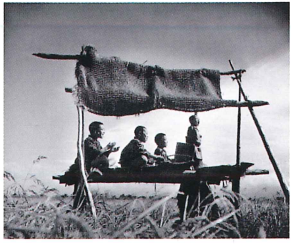
開館時間 = 9:30 ~ 17:00 (入館は16:30まで)

観覧料 = 一般・大学生 500円 (400円) / 高校生 200円 (150円) / 小中学生 100円 (80円)

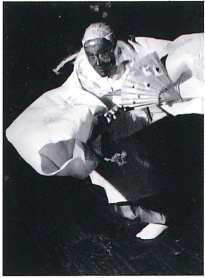
* () 内は20名以上の団体料金

キュレーター = 飯沢耕太郎 (写真評論家) 企画協力 = 日本写真協会 主催 = 福島県立博物館 / 国際交流基金

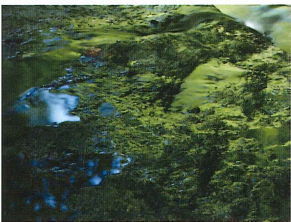
写真展 東北 — 風土・人・暮らし 日本人写真家たちが見た東北



雀追い 大雄村狐塚
1943年頃 千葉禎介



延年の舞 岩手県西平泉町毛越寺
1979年 芳賀日出男



ブナの森の緑の映り込み
2011年 林明輝



道 Sendai Collection Vol.1
2000-2003年 仙台コレクション



気仙川 2003年8月23日
2003年 畠山直哉

本展覧会は、日本の写真評論の第一人者として活躍している宮城県出身の飯沢耕太郎氏の監修のもと、東北にゆかりのある、しかし世代も表現もさまざまな10組の写真家による作品で構成したものです。過去の作品から、現在進行形の作品までを同時に展示し、過去・現在・未来を貫く個性的な写真家の視点を紹介しました。

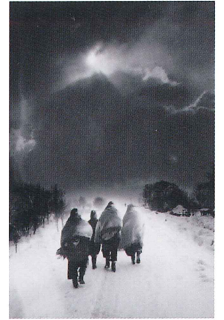
1950～60年代の農村を撮影した千葉禎介、小島一郎、東北各地の民俗儀礼や祭りなどを追った芳賀日出男、内藤正敏、田附勝、自らの個人史と故郷の光景を重ね合わせる大島洋、畠山直哉、東北の美しい自然にカメラを向ける林明輝、縄文時代の遺跡を通じて日本人の精神の起源を探る津田直による作品、そして伊藤トオルをリーダーに宮城県仙台市の「無名の風景」を集団で撮影した「仙台コレクション」のシリーズです。

(国際交流基金「震災を乗り越えて—日本から世界へ—」事業報告書(2012年8月発行)より)

東日本大震災後、被害のようすは多くのメディアで報道されましたが、本展覧会は、被害状況や復興のようすをリポートするものではなく、さまざまな年代の、異なる表現をもちいた写真家の視点を通して奥深い東北の魅力を海外の人に伝えることを目指しました。

国際交流基金によって企画された本展は、中国・イタリア・オーストラリアなどの40都市を5年間に渡って巡回し、東北の豊かな自然や独特の祭りのようすを世界に発信します。

今回、一時日本に里帰りする機会に福島県立博物館と岩手県内で公開されることになりました。



つがる市稲垣付近
1960年 小島一郎



御沢仏・御後三宝荒神像
1981-82年 内藤正敏



鹿撃たれる 岩手県釜石市 2009年11月
2009年 田附勝



加茂青砂、秋田 フィールドノート
(縄文遺跡・男鹿半島・夜ノ森)
2011年 津田直

会期 : 2014年4月19日(土)～5月18日(日)

出品点数 : 10作家、123点

出品作家 : 千葉禎介・小島一郎・芳賀日出男・内藤正敏・大島洋・林明輝
田附勝・仙台コレクション・津田直・畠山直哉

交通案内

JR会津若松駅より約3km

▶タクシーで約10分

▶バスをご利用の場合(会津若松駅バスターミナルから)

1. まちなか周遊バス「ハイカラさん」にて約20分
三の丸口下車すぐ
2. まちなか周遊バス「あかべえ」にて約30分
三の丸口下車すぐ

磐越自動車道会津若松ICより約6km

▶車で約20分



トークイベント 縄文の再生「東北 — 風土・人・暮らし」展を巡って

4月19日(土) 13:30～15:00 福島県立博物館講堂

飯沢耕太郎(本展監修者・写真評論家) × 田附勝(写真家) × 赤坂憲雄(福島県立博物館長)

参加費無料 / 申し込み不要